

成澤文和君がさいたま市展に写真を出品

“上原レポート” No.200

上原 昇（2組）

9月30日から10月19日まで、第23回さいたま市美術展覧会（略称「市展」）がうらわ美術館（浦和区仲町）で開催中です。会場の関係で、開催が分野別に三期間に分かれていて、第2期の写真の部は10月7日から12日までです。

写真撮影を趣味としている成澤文和君（4組。さいたま市南区在住）が写真の部に応募・入選したのを機に、今年も近所に住む成澤、関賢治（2組）、浅倉英樹（4組）と筆者の4人が市展鑑賞に集まりました。パンフによると、今回の写真の部は応募数93のうち入選数は79、無鑑査および招待24を入れて103点の作品が展示されています。

成澤君の出品作題名は『飛泉』で、流れ落ちる滝を写し撮った見事な一品です。

筆者もこの何年か、当展に足を運んで写真を鑑賞していますが、女性の出品が増えていること、組み写真（何枚か組み合わせで物語性ある作品に仕上げる）が全盛になってきたことなど、写真界の変化を感じたりします。

関君は、風景写真にスマホを当てると撮影場所が画面に表示されるというGoogleの新技术？を披露してくれました。

鑑賞後は、近くの食堂に移動して、昼食会兼懇親会となりました。



作品前の成澤君

以下は作家（成澤君）のコメントです。

「さいたま市展（写真の部）に出品するようになって今年で5年になります。今回の作品は3年前、福島県檜原湖畔の民宿に泊まって、裏磐梯達沢不動滝を撮ったものです。」

『飛泉』



たまたま、本投稿が HP “上原レポート” の 200 回目となりました。

2017 年 7 月に筆者が投稿した原稿を HP 管理者の原田義則君（3 組）が“上原レポート”と命名してくれたのが最初です。

筆者は 2017 年 6 月に関東同窓会の会長に就任して、同窓会活動を中心にしたレポートを HP に投稿する機会が増えました。

3 年間の任期が終わってからも、関東同期会の代表幹事という立場も意識したうえで、日々折々の話題を掲載してきました。

スタートから 8 年経過して、レポートが 200 回を数えることとなります。

日頃、拙いレポートを読んでいただいている同期諸氏に感謝します。

既報「HP 累計アクセス 10 万件突破」（10 月 10 日付）でも記しましたが、65 期 H P を賑やかな情報発信基地とするためにも、皆さんからの話題提供をお待ちしています。

（2025 年 10 月 12 日記）